

# 平成30年度 学校関係者評価委員会 議事録

学校法人池田学園 東京服飾専門学校

学校関係者評価委員会

## 1.平成30年度学校関係者評価委員会

・開催日時

平成30年9月27日 17:00～

<学校関係者評価委員>

池田 竹谷 企業等委員 (株)オルウェイズ山

下 敏秀 企業等委員 (株)たかくら新産業若

林 由美 教育関係者委員 高知大学

若林 京子 教育関係者委員 保谷中学校

野間 憲治 池田学園 理事長

池田 稔 池田学園 東京服飾専門学校 校長

山下 節子 池田学園 教職員 副校長

池田 衣里 池田学園 教職員

竹内ひさえ 卒業生

## 2.学校関係者評価と意見

1.教育理念
A 学校の理念に基づいた教育が行われているか  学) 野間理事長より、日頃からの説明。
B 学校における職業教育の特色は何か  学) 全ての教職員を実務経験において、内外に示せる活躍を持つ人を採用しており、また創設者の池田淑子が考案した池田式製図法をはじめ、実践的な技術や知識を身に付けられるよう指導を行っている。学生ひとりひとりが知識や技術を確実に身につけられるよう、懇切丁寧な教育・指導を心がけています。
C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか  特に、ご意見なし
D 学校の理念・目的・育成・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか  学) 入学前、入学希望時点での体験入学や学校の資料やホームページ、入学後は入学式や卒業式の挨拶もちろん、様々な場面で学生や保護者に対して周知を行っています。
E 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか  学) 産学合同授業や研修先の企業・人物と連携を図ることで、現場で求められる知識や技能、人格を確認。対応した知識や技術を持った学生を育成するべく、授業内容や設備の拡充を行っている。 学) 就活担当を各学科ごとに取りまとめることで、求人内容に設定された技能や人格等の傾向を把握。また、求人担当者との連絡を取ることで、求められる人物像を常にリサーチしている。外部との連携を常に密にするよう勤めている。 池田氏) ECサイトの台頭やファストファッションの隆盛など、ファッション・アパレル業界は激動の時代を迎えている。時局に沿った求められる人材を常に把握するよう努めてほしい。

2.学校運営
A 目的等に沿った運営方針が策定されているか  学) 「ファッション業界での即戦力となる人材の育成」を目標に、各学科が目指す職種に合致した教育を行うことを全教職員に徹底している。

B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか
特に、ご意見なし
C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
特に、ご意見なし
D 人事、給与に関する規定等は整備されているか
学) 昇進制度や賃金制度については、学内の規定により定められている。
E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか
特に、ご意見なし
F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか
学) 教職員および学生が、研修先企業の機密情報に触れる機会も多いため、コンプライアンスに対する意識教育を徹底している。特に学生においては機密の取り扱いを理解するため、研修前に面談や誓約書の提出などを行い、問題発生の防止に努めている。 竹内) 学生の法令順守意識を高めることは、社会に出る上での大きな経験になると考えられる。職務によって知れた情報の取り扱いに留意する、という社会人としての常識を、実践の場で身に付ける良い機会となっている。
G 教育活動に関する情報公開が適切になされているか
学) 産学協同授業や研修などの授業内容や、就職実績などの情報を学校資料・ホームページ・オープンキャンパスの説明会資料で公開している。ただし、個人情報や相手先企業との公開条件等を踏まえた上で、可能な範囲での情報を行っている。
H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
学) 校内ネットワークを構築して業務上の連絡を効率化しているほか、学籍管理ソフトを使用して出欠や成績、就職先などのデータを集約している。

<b>3.教育活動</b>
A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか
学) 理事長以下、教務部長、学科主任と担当講師により、各学科に求められる技術や知識と共に、社会人として求められる一般教養も身に付けられるよう指導を行っている。
B 教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
特に、ご意見なし
C 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
学) 学科長を中心に、外部講師とも連携の上で必要なカリキュラムとその配分などを考慮。体系的な指導が行える体制作りを行っている。
D キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
学) 各職種経験者を中心にカリキュラムを作成、実践的な授業内容を行っている。これに加え、産学協同授業や研修先企業からの情報をフィードバックを行い、最新の現場状況に合致した教育を行っています。
E 関連分野の企業・関係施設棟や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか
学) 教育課程編成委員会に参加いただいている企業や業界団体の方からの意見を、カリキュラム編成や教育環境整備の参考にしている。

<p>F 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか</p> <p>学) 産学協同授業に関しては、ファッションビジネスコースやデザイナーコース、テクニカルコースなど、目指す職業ごとに対応した内容を、関係分野の企業協力の下で学科ごとに行っている。</p> <p>池谷) ファッション業界と一口に言っても幅広いジャンルがあり、学生の志望する方向性に合致したスキル習得ができるよう、今後もより多くの企業等との連携を期待したい。</p>
<p>G 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>学校) 長期休暇中に学内で模擬授業を行うことで、授業内容を確認・向上している。また、学期末には学生に対して授業内容に対するアンケートを行い、学生からの評価も確認することで、授業内容の向上に役立っている。</p> <p>若林) 学生からの評価には主観によって偏りがちになるため、講師の問題か学生側の問題かを精査することが必要と思われる。</p>
<p>H 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p> <p>学) 評価では無いが、企業人事担当者から意見を伺うことは常にあります。</p>
<p>I 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p> <p>学) 成績評価のシステムを構築し、学内で明確な基準を設けて対応している。造形系の授業では、同じ授業を持つ複数の講師が制作物を評価することで、成績評価の偏りが発生しないよう注意している。</p> <p>竹内) 制作物を採点する授業では、採点の基準がペーパーテストよりもわかりにくくなってしまう。公正・公平な評価は学生の学習意欲にも影響するので、内部で公平さを保つだけでなく、それが学生がわからぬよう注意してほしい。</p>
<p>J 資格取得等に関する指導體制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p> <p>学) ビジネスコースの「ファッションビジネス能力検定」や、パターンナーコースの「パターンメイキング技術検定」など、学科ごとに主要な資格に対しては、必要な知識や技術を指導する授業を設けている。ただし、学生の経済的な負担を考慮して、資格の取得を必須条件としてはいない。</p> <p>若林) 資格の取得を進級や卒業の必須条件としても良いのではないかと。「この学校に入れば資格が取れる」というのも、ひとつの魅力となる。</p> <p>若林) 経済的な負担に関しては、学費に盛り込むなどの形で対応できないだろうか。</p>
<p>K 人材育成目標の達成に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>学) 各学科ごとに目指す職業の経験者や現役スタッフを確保しており、即戦力となる学生を育成する授業を行っている。教員の質については数ある服飾系の学校の中ではもっとも充実していると自負しています。</p>
<p>L 関連分野における業界等との連携において、すぐれた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</p> <p>特に、ご意見なし</p>
<p>M 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</p> <p>学) 一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会(JAFIC)主催の合同研修や、東レのACSTレーニングに講師を派遣し、技術や指導の維持と向上に努めている。</p> <p>学) 年に数回の研究研修機会と勉強会、海外研修を実施。教員の指導力向上を図る。また企業から講師を招いての講演や、職員の知見と技能向上に各種職能団体の講習会、研修機会を義務づけサポートしている。</p>
<p>N 職員の能力開発のための研修等が行われているか</p> <p>特に、ご意見なし</p>
<p>4.学修成果</p>
<p>A 就職率の向上が図られているか</p>

<p>学) 就職率向上のため、エントリーシートの作成から担任・就活担当によるサポートを行っている。ファッション業界は職種だけでなく、ブランドの系統、企業の特徴なども学生の志望と一致しなければ早期退職につながるため、学生の志望を把握した上でのマッチングが必要と考えている。</p> <p>池田) ひとつくりに「販売職」などとまとめることのできない、ファッション業界の特性に合った就職支援が必要と考える。そのためには幅広い企業からの求人が集まるよう、地道な信頼関係を構築していくことが必要か。</p>
<p>B 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>特に、ご意見なし</p>
<p>C 退学率の低減が図られているか</p> <p>学) 出席日数の増加や補習の確定した授業など、問題の兆候が発生した学生本人だけでなく、保護者に対しても連絡を取るなどの対応を行っている。現状、退学理由は経済的事情や進路の変更など、学校としての対応が難しい理由でのものが大半を占めている。</p> <p>学) ファッション業界内での進路変更に対応するため、転科制度を設けて既定の成績を取めた学生には、学内での転科を可能にしている。</p>
<p>D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p> <p>学) 現場で活躍している卒業生には、就職活動やキャリア形成の授業で講演を依頼しており、卒業後の活動状況についても元担任の講師を中心に注視している。</p>
<p>E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか</p> <p>学) 卒業生がオープンキャンパスや就活の授業で来校する際、担当学科の講師と面談することで、実体験に基づいた授業内容の是非などを聞き取り、授業内容に反映している。</p> <p>若林) 夏休みのオープンキャンパスなど、卒業生の実体験を交えたお話が聞けるのは保護者からの評価も高い。こうした機会が得られるよう、今後も卒業生との連絡を密に取り続けてほしい。</p>

<p>5.学生支援</p>
<p>A 進路・就職に関する支援体制は整備されているか</p> <p>学) 各学科ごとに就職活動担当者を配置し、職種ごとに応じたきめの細かい就職活動支援体制を整えている。就活室を設け、就活担当者が得た求人情報を随時掲載し、インターネット上の就職支援サイトの閲覧、個別の指導・相談に対応できる体制を構築。就活室は常時開放しており、学生が自主的に求人情報を収集できるようにしている。</p> <p>若林) 学生と教職員の距離の近さが、就職活動や私生活の相談のしやすさとなって学校の特長となっている。それでも内向的な学生には、学業や私生活で抱えた問題を相談できない可能性も多く、引き続き親身な対応と目の行き届く体制作りを推進してほしい。</p>
<p>B 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>学) 定期的に担任講師との面談を行うほか、学生からの要望があれば随時担任や各授業の講師が相談に乗っている。</p>
<p>C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</p> <p>学) 入学時、成績の優秀な学生には推薦入学制度を設定し、学費の軽減を行っている。また、3年専攻科への進学時に、1～2年次に優秀な成績を取めた学生の学費を免除する特待生制度を設けている。</p> <p>山下) 将来的には独自の育英制度の設立など、経済的な支援制度の拡張を視野に入れてはどうか。</p>
<p>D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>学) 保健室を設け、授業中に体調の不調を訴える学生には必要に応じて休憩をとり、改善が見られない場合には救急車の手配などを行えるようにしている。</p> <p>竹内) 学生への健康診断の実施を行えないか。遠方から東京へ出てきている学生の保護者にとっては、健康状態は大きな懸念でもある。</p>
<p>E 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p>

学) サークル活動に関しては、学校が認定したサークルに対して、活動の状況に合わせて活動費を支給している。また、活動場所として入学時のオリエンテーションや校内の各種ショーにて、発表の時間を設けている。

若林) 学校にとって授業が最優先となるべきだが、学校へ通い続けるためには友人を作る場や、学校を「楽しい」と感じさせる工夫も大事なことと考えられる。校外活動の活性化は、退学者減少という効果もあるので、今後も負担にならない範囲での支援を望む。

F 学生の実生活環境への支援は行われているか

学) 定期的に行っている担任との面談では、常に学校生活だけでなく私生活の相談にも乗る体制を整えている。

G 保護者と適切に連携しているか

学) 無断欠席や成績の低下など、問題傾向の見られる学生には、その都度担任より保護者への連絡を行っている。入学前のオープンキャンパスや入学時のオリエンテーションで、保護者同伴の学生には持病等の個別の相談も受け、授業担当のある講師で情報を共有して適切な対応を行うように連携している。

H 卒業生への支援体制はあるか

学) 卒業生の就職活動だけでなく、転職の相談等も含めて、元担任を中心に各講師が相談に乗る体制を整えている。また、連携企業の追加求人があった場合は、未就職の卒業生を紹介している。

I 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか

学) 社会人向けに、一部授業を単独でも受講できる単価コースを設定している。

山下) 現状での人員では難しいが、少子化の進む社会に対応するため、夜間コースの設定なども考慮してはどうか。

若林) 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか？業界の発展のために力を入れたいところだと思います。

## 6.教育環境

A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

学) 縫製用のミシンやデザイン授業用のMac、ビジネス向けのWindows、パタンナーのCADなど、必要な設備を整えている。随時メンテナンスや追加購入、入れ替えを行い、現場で必要なスキルを磨ける、実践的な設備を整えている。

池田) 即戦力となる人材を育成するためにも、使用する機材には現場で使われているものと同等のものが求められる。これは時流で変化することもあり、最新の機材を常に把握できるよう、リサーチを進めて遅れを取ることのないようにしてほしい。

B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

学) 年間3000件を超えるインターンシップは当校の特徴にもなっており、現場を体験することは校内での授業と並び、学生の成長を引き出す経験になると考えている。参加する学生には、事前に研修担当者との面談を行うことで各種注意事項を伝達。当日や研修後のフォローも行っている。

池田) 豊富な「研修制度」は本校の大きな魅力であり、質・量ともに現状を維持することが望ましい。

若林) 年に一度、秋に海外研修旅行を実施。洋裁の本場であるヨーロッパ・アメリカで、本場のファッションやビジネスに触れることで、国内では決して行うことのできない感性を磨く効果が得られると考える。

山下) 経済的な理由から参加を見送る学生もいるようだ。参加費用の軽減を含め、経済的なサポートの充実を望む。

C 防災に対する体制は整備されているか

学) 入学式のオリエンテーションの一環として地域の広域避難場所である染井公園までの避難訓練を実施。校内に緊急用の飲料水や食糧を備蓄している。

若林) 緊急事態への対応の成否は、日常的な訓練の積み重ねが必要になる。多数の学生を預かる学校として、緊急時に教職員や学生の対応に問題がないよう備えを怠らないようにしていただきたい。

## 7.学生の受け入れ・募集

A 学生募集は、適正に行われているか

学) 全国の高等学校への学校資料配布を始め、進学系ウェブサイトにて学校の情報と共に入学案内を掲載。オープンキャンパスや学校見学などのイベントに参加した学生に対して、授業内容や就職率などを説明し、適切に行っている。

山下) インターネットの発達に伴い、学生の募集がネットを中心としたものになった久しい。ネットの中でも各種SNSの隆盛・衰退などもあるため、ファッション業界に興味を持つ学生にアピールするのに適切な媒体選択が重要と思われる。

B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

学) 学校資料やオープンキャンパスでの説明会において、授業内容や産学協同授業・研修の内容、就職状況などを適切に説明している。オープンキャンパスでは学生や卒業生もスタッフとして参加し、自らの体験を直接伝えている。

竹内) 学生募集にも関わることだが、過不足なく適正な情報を発信していくことが求められる。

C 学納金は妥当なものとなっているか

学) 入学金、授業料、設備費、教材費などの詳細を公開しており、適正な金額であると考えている。また、都内の同種専門学校と比較した上で、適正な金額に設定している。

竹内) 「他校と比較した際の学費の安さ」を入学理由に挙げる学生も多い。授業内容や学校設備に影響を受けない範囲で、現状の学費設定が維持されることを望む。

## 8.財務

A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

学) 過去4年間に於いて2016年度112名、2017年度131名、2018年度158名、2019年度162名と毎年入学者が伸びており、来年度も現時点において前年度の願主出願者数を上回っている。

学) 体験入学や学校見学希望者も多く、個別ガイダンス等、丁寧な説明やアドバイスは功を奏しており、収入が予算を下回った場合の預金も保持しており、安定した学校運営が見込めるものである。

B 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

学) 毎年増加している学生数に対する備品数の調整、人員確保において、一年を通しての過不足の洗い出し、それに伴う予算編成を行っており、有効かつ妥当なものとなっている。

C 財務について会計監査が適正に行われているか

学) 毎月の月次決算を含め、公正かつ適正な会計処理及び決算を行っている。

D 財務情報公開の体制整備はできているか

学) ホームページでの公開に勤めている。

## 9.法令等の遵守

A 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

学) 学校法人として、教職員には法令順守を最優先事項として心掛けるように指導している。学生への授業へのアンケートでも、教職員の言動に問題がないかをチェックする体制を確立している。

山下) コンプライアンスの徹底には、各自が意識を持っているつもりでも、パワハラ・セクハラ等に抵触していることも多い。内部での指導だけでなく、外部専門家の指導を受ける機会を設けてはどうか。

B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

学) 学生の個人情報については、名簿・成績等を事務にて一元管理しており、データ化された部分についても事務グループの中で、外部の専門企業と契約の上、ウィルス対策ソフトを導入したパソコンで取り扱うなど、流出等しないように対策をしている。

山下) コンピュータやネットワークによるデータ管理は専門性が高く、専門企業の協力は必須と考える。学校の信頼に関わる問題であるため、今後も教職員の意識も含め取り扱いに注意して問題の発生を防いでいただきたい。

C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか

特に、ご意見なし

D 自己評価結果を公開しているか

特に、ご意見なし

#### 10.社会貢献・地域貢献

A 学校の教室資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

学) 一般財団法人日本ファッション教育振興協会が実施する「ファッションビジネス能力検定」、「パターンメイキング技術検定」、「ファッション色彩検定」「ファッション販売能力検定」の試験会場として提供をしている。

学) 近隣の小石川中等教育学校の職業体験を、毎年受け入れを行っている。

B 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

学) 学校イベント『ファッションWEEK』では、制作した洋服やアクセサリなどの販売物の一部を、児童養護施設『まっぴら園』に提供している。

若林) 近年の自然災害が多発している状況を踏まえ、長期休暇などを利用した学生独自のボランティア活動を、学校として支援するような取り組みをすることはできないか。

C 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか

学) 社会人や大学生を対象とした単科コースを設けているが、公開講座や教育訓練の実施には授業での使用を最優先としているため、人員の問題もあり現在体制での実施は難しい。

若林) 学校法人である以上、学生に対する授業が最優先であることは理解できる。今後の課題として、授業への影響が少ない長期休暇期間などを利用して、地域への公開講座などを行うことが、近隣の高校生に対するアピールともなりえるのではないか。

#### 11.国際交流(必要に応じて)

A 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか

特に、ご意見なし

B 留学生の受入れ・派遣、在籍管理棟において適切な手続き等がとられているか

学) 留学生の受け入れについては、JLPTによる日本語能力試験・N2相当以上の語学力を有する学生に対して行い、学修・生活指導については担当が日本人学生と同じ様に個別に対応している。

C 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか

特に、ご意見なし